



学校法人志賀学園  
久之浜こども園  
平成30年4月30日

園庭のこいのぼりが爽やかな風のにり気持ちよさそうに泳いでいます。  
五月晴れの空の下、園庭で遊ぶ子どもたちも、とても気持ちよさそうです。

先日はお忙しいなか、自由保育参観にお越しいただきありがとうございました。  
年少、年中さんは、入園、進級当初の園での子どもたちの様子が、おわかり頂けたことと思います。環境の変化により、お母さんから離れられなかったり、泣いてしまったり、また、ハッスルしすぎたり…等々、いつもとは違う姿が見られたお子様もいたとは思いますが、その子なりに親御さんが見てくれているということに、安心するとともに心が躍っていたものと思います。これから、徐々に園生活にも慣れて安定した園生活が送れるようになり、7月の保育参観ではまた違った保育場面をお見せできることと思います。どうぞお楽しみに！

年長さんは、クラス担任も変わることなく進級し、友だち関係も継続していますので安定した園生活を送っています。幼児期の教育において大切なことのひとつに、一人ひとりの自発性を育むことがあります。この時期は、友達が作った物やしていることに憧れて自分もそのような物を作ろうとしたり、知らず知らずのうちに友だちのしていることをまねたりしながら自ら行動するようになります。すなわち、協同性が育つ中で自発性が育まれると考えられます。そのような視点から保育参観には年長組になって初めての協同的なあそびとして、グループでこいのぼり作りを行いました。大きなこいのぼりの片面に思い思いの素材を使い表現した後、みんなの前で発表し友達と共有しあい、続いて残りの面の製作に取り組みました。この協同的なあそびを通して、其々の気づきがあったように思います。

さて、本園の教育目標は「幼稚園生活を通じて、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、生きる力を育成する」です。このことは、入園してから卒園するまでの間に少しずつ着々と育てて行きたいことです。

幼児期に生まれた自発性は、生涯にわたって積極的に何かを学んだり、感動したり更には現状を改善したりして行こうとする力の芽となります。私たち保育者はこのようなあそびから自発性が育って行くことを目指しています。

幼児期は、木でいえば根っこの部分をしっかりと育てておく時期です。

この時期に、生涯の基礎となる部分をご家庭と幼稚園がしっかり手を携えて育てて行きましょう。子どもの歩調にあわせ、保護者の皆様と共に、長い展望をもって育てて行きたいと思っておりますので宜しくお願いします。